

家畜衛生広報いいだ

長野県飯田家畜保健衛生所
飯伊家畜畜産物衛生指導協会
TEL : 0265-53-0439, 0440
FAX : 0265-53-0441
E-mail : iidakachiku@pref.nagano.lg.jp
http://www.pref.nagano.lg.jp/iidakachiku/

R1(2019)12.26 発行

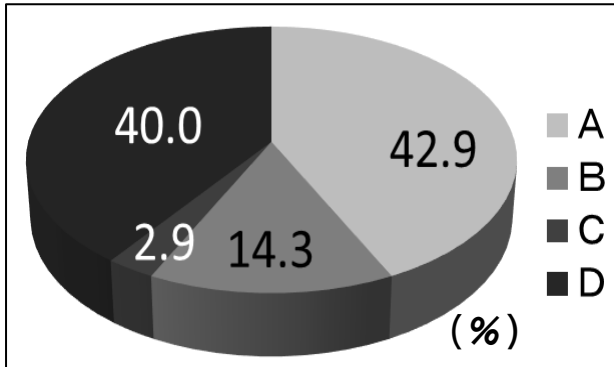
2019_No.14

酪農生産性向上対策事業による

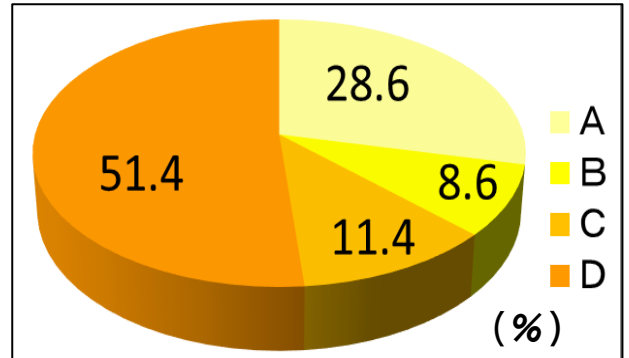
令和元年度 第2回 **バルク乳検査**の集計結果をお知らせします。

- 評価 A : 正常/目標 B : やや多い C : 多い D : 非常に多い
- グラフ 管内検査戸数 (35戸) のうちA~D評価の戸数の割合 (%)

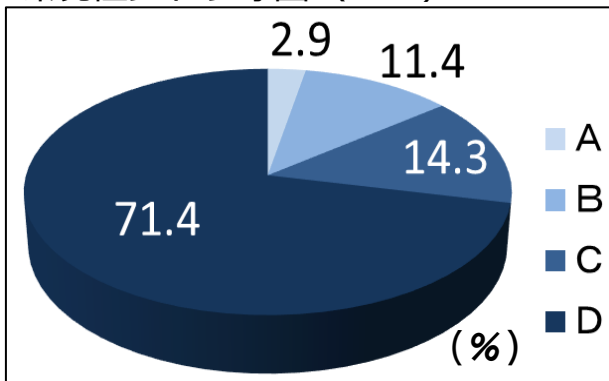
★生菌数



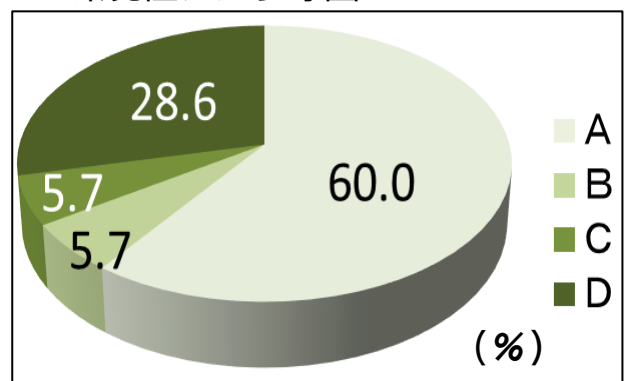
★黄色ブドウ球菌 (SA)



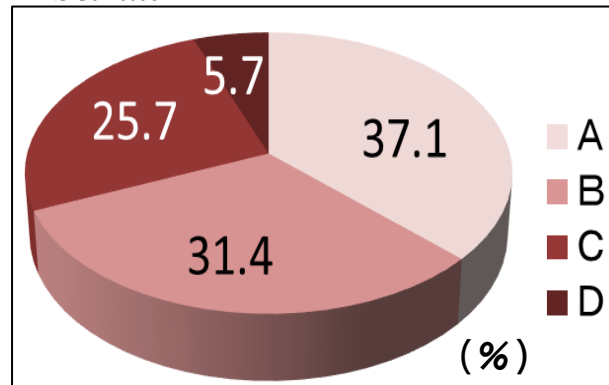
★環境性ブドウ球菌 (CNS)



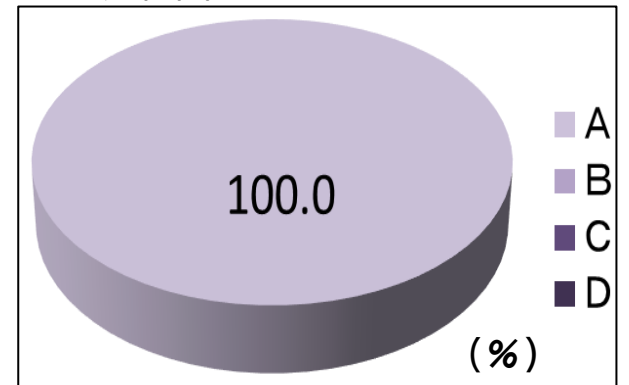
★環境性レンサ球菌



★大腸菌群



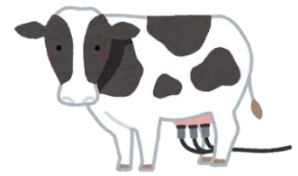
★耐熱性菌



★マイコプラズマ検査及び牛ウイルス性下痢ウイルス検査は、全て陰性でした。

第1回目のバルク乳検査 (R1.8.6 発行 No.9 参照) と比較し、生菌数及びSAのB~D判定割合が増加しています。再度搾乳手順を確認し、SA保菌牛の摘発については家畜保健衛生所へご相談ください。

寒冷期の乳房炎対策



冬場は環境性原因菌（大腸菌等）による乳房炎の発生は少なくなる一方、**伝染性原因菌**である**黄色ブドウ球菌(SA)**による乳房炎が増えることがあります。

原因は ①**乳頭表皮のバリア低下**、②**潰瘍性乳頭炎** などが考えられます。

① 乳頭表皮のバリア低下

濡れたまま冷たい風に晒されることにより乳頭の皮膚が乾燥し、荒れるため

対策： 牛床のこまめな交換

殺菌効果のあるヨード系薬剤等でポストディッピングを行い必要に応じてローション等による保湿を行う

② 潰瘍性乳頭炎

ヘルペスウイルス2型の感染による。

乳房浮腫が強い初産牛に発生しやすいとされ、初めは乳頭に水ぶくれができますが、搾乳作業などによってやぶれ、表皮は硬くなり、次第に青紫色から黒色のかさぶた状となる。乳頭が壊死することもある。

対策： 機械搾乳を中止しシリコン製乳頭チューブを利用、ヨード系薬剤でこまめにディッピングする。

(参考文献；NOSAI 道東 研究レポート)

移行期（分娩前後約3週間）の飼養管理

一般に**移行期は乳房炎リスクが高い**と言われていますが、健康に移行期を経過させることは乳房炎のみでなく、その他の周産期病予防にもつながります。移行期の飼養管理は以下のポイントを確認しましょう。

- ✓ 乾物摂取量は牛群のボディコンディションスコア（BCS）を把握したうえで算出
- ✓ ビタミンA,Eの不足に注意（必要に応じてビタミン剤の投与を行う）
- ✓ 乾乳前期のエネルギー過多に注意し、BCSの変化がないようコントロール（乾乳期に入る前にBCS：3.25～3.75（基本3.5）に調整）
- ✓ 乾乳後期はエネルギー、タンパク質不足に注意
飼料設計指標 → 可消化養分総量濃度（乾物中）：65～70%
粗タンパク質濃度（乾物中）：14～15%
- ✓ ミネラルコントロールに注意
乾乳後期はカルシウムやカリウム等の給与を抑える
（カリウム含量が2%以下の粗飼料（ビートパルプ等）を用いるなど）



(参考文献；畜産コンサルタント 37号 2001.5)